

東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科（博士前期課程）3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすくするため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。専攻ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

大学・大学院の目的（東京海洋大学学則第1条、大学院学則第1条）		研究科の教育研究上の目的							
<p>東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養 <p>東京海洋大学大学院は、海洋に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>		<p>研究科においては、海洋とその可能性に興味と関心を持ち、海洋に関する学術の理論及び応用を探求し、先端領域を切り拓く高度の専門能力と独創性、及び国際的に活躍できる豊かな教養と倫理性を併せ持つ高度専門職業人や研究者を養成するとともに、海洋分野の諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの高度な研究を行うことにより、直面する諸課題の解決を図ることで、人類社会の発展に寄与することを教育研究上の目的とする。</p>							
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)							
<p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p> <p>地域特有の問題のみならず、グローバル化する社会と気候変動等地球規模での諸課題を踏まえ、海洋に係わる諸課題の解決と人類・社会の発展に寄与する海洋の持つ可能性に関心を持ち、海洋分野における高度な専門知識と先端的技術を駆使して、異分野との協働による先端領域の開拓、および国際的に活躍できる豊かな教養と社会から科学技術への信頼を得られる倫理性を併せ持つ人材の養成を目指します。</p>	<p>1. 教育課程編成の方針</p> <p>博士前期課程における教育課程は、所属専攻分野における専門的な講義科目、能動的学修に重点をおいた演習・実験・実習科目、および学位論文研究に係る科目から編成されます。学際的知識を得るための研究科共通科目、専攻分野共通科目のほか、他専攻科目（他大学院科目を含む）の履修を義務づけています。また、学部と大学院とを有機的に結びつける博士前期課程科目の先行履修制度を導入しています。</p>	<p>1. 受け入れる学生に求める関心・意欲</p> <p>大学院海洋科学技術研究科博士前期課程では、時代や社会に機動的に対応でき、地球規模での海洋に係わる諸課題の解決に創造的に立ち向かい、かつ、海洋とその関連産業分野における先端領域を切り拓く、意欲と能力を持つ学生を求めます。</p>							
<p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p>	<p>2. 教育課程実施の方針</p> <p>大学院における学修課程・学修方法については、その専門性に応じて、各専攻で詳細に定められています。討論型授業、ケースメソッドなど多様な手法で実施される授業により、専攻分野だけではなく、学際的知識を幅広く学ぶ学修課程を提供しています。〔2〕</p> <p>履修にあたっては、多様な学生に配慮した長期履修制度や、授業科目の成績・評価についての申立制度を導入しています。さらに、カリキュラムの国際通用性を担保するために、講義の英語化を推進し、単位の実質化を図るとともに、それらを基盤として海外の協定締結大学との共同学位プログラムも実施しています。また、特に優れた研究業績を上げた者については在学期間を短縮する制度も導入しています。</p> <p>(前期課程各専攻) 特別演習・実験・論文作成を通じた教育や実践的教育を介して、研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における倫理性等を備え、自ら課題を発見し解決する能力を修得させます。</p>	<p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p>							
<table border="1"> <tr> <td>研究の推進能力</td> <td>各研究分野における研究課題の社会的背景、学術的意義、応用的価値を把握し、研究を適切に推進できる能力</td> </tr> <tr> <td>幅広い専門知識</td> <td>各研究分野における基礎科学と応用科学に関連する幅広い専門知識</td> </tr> <tr> <td>論理的説明能力、倫理性</td> <td>各研究分野における研究成果を論理的に説明する能力、学術研究における倫理性</td> </tr> </table>	研究の推進能力	各研究分野における研究課題の社会的背景、学術的意義、応用的価値を把握し、研究を適切に推進できる能力	幅広い専門知識	各研究分野における基礎科学と応用科学に関連する幅広い専門知識	論理的説明能力、倫理性	各研究分野における研究成果を論理的に説明する能力、学術研究における倫理性	<p>【学修成果の評価の方針】〔3〕 学修成果の評価基準を明示するとともに、研究成果の審査および試験を適切に行います。（東京海洋大学カリキュラム・ポリシー）</p>	<p>(1) 専門的学識</p> <p>博士前期課程における専門分野の学習に必要な海洋・水産・海事に関する基礎的な専門知識と実験・実習等で培われた研究の遂行に必要な技術の修得</p> <p>(2) 豊かな国際性と幅広い教養</p> <p>異分野との協働や英語による情報発信などグローバルに活躍する人材に求められる幅広い教養と国際的・文化的素養</p> <p>(3) 自ら考え判断し表現する能力</p> <p>社会的背景を踏まえ、解決すべき課題について論理的に思考し、問題解決に向けた適切なアプローチができる基礎的な能力</p> <p>(4) 現場で通用する実践力</p> <p>自分の考えをわかりやすく他者に伝える表現力や、積極的に他者と交流するコミュニケーション能力と社会に対する責任感</p>	
研究の推進能力	各研究分野における研究課題の社会的背景、学術的意義、応用的価値を把握し、研究を適切に推進できる能力								
幅広い専門知識	各研究分野における基礎科学と応用科学に関連する幅広い専門知識								
論理的説明能力、倫理性	各研究分野における研究成果を論理的に説明する能力、学術研究における倫理性								
<p>3. 修了認定(学位授与)の要件</p> <p>所定の単位を修得し、各専攻で定める学位授与の要件を満たし、学位論文の審査および最終試験において、目標とする能力を身につけたと認められた者〔1〕に対して修了を認定し、修士（海洋科学または工学）の学位を授与します。</p>		<p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>入学者選抜に際しては、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜および外国人留学生特別推薦選抜を実施し、学生を選考します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜（口述試験または学力試験） 口述試験では、口述試験結果、成績証明書、入学定員等を考慮して総合的に評価を行います。 学力試験では、学力試験成績、成績証明書、入学定員等を考慮して総合的に評価を行います。 ・社会人特別選抜 学力試験成績、成績証明書、入学定員等を考慮して総合的に評価を行います。 ・外国人留学生特別選抜 学力試験成績、成績証明書、入学定員等を考慮して総合的に評価を行います。 ・外国人留学生特別推薦選抜 書類審査または口述試験により総合的に評価を行います。 							

〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。

〔2〕 各専攻の開設科目に加えて、専攻共通科目として、キャリア関連科目、海外大学との連携プログラム等を開講します。

〔3〕 各科目の到達目標・評価方法・評価基準をシラバスで明示するとともに学位論文の審査基準（審査方法・手順を含む）を公表しています。履修した授業科目の単位修得の認定（成績評価）は、学期末若しくは学年末に行う試験又は研究報告によるものとし、科目ごとに定める到達目標の達成度に応じて優・良・可・不可の成績を付与します。

東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科（博士後期課程）3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすく示すため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。専攻ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

大学・大学院の目的（東京海洋大学学則第1条、大学院学則第1条）		研究科の教育研究上の目的	
<p>東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養 <p>東京海洋大学大学院は、海洋に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>		<p>研究科においては、海洋とその可能性に興味と関心を持ち、海洋に関する学術の理論及び応用を探求し、先端領域を切り拓く高度の専門能力と独創性、及び国際的に活躍できる豊かな教養と倫理性を併せ持つ高度専門職業人や研究者を養成するとともに、海洋分野の諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの高度な研究を行うことにより、直面する諸課題の解決を図ることで、人類社会の発展に寄与することを教育研究上の目的とする。</p>	
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)	
<p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p> <p>地域特有の問題のみならず、グローバル化する社会と気候変動等地球規模での諸課題を踏まえ、海洋に係わる諸課題の解決と人類・社会の発展に寄与する海洋の持つ可能性に関心を持ち、海洋分野における高度な専門知識と先端的技術を駆使して、異分野との協働による先端領域の開拓、および国際的に活躍できる豊かな教養と社会から科学技術への信頼を得られる倫理性を併せ持つ人材の養成を目指します。</p>	<p>1. 教育課程編成の方針</p> <p>博士後期課程における教育課程は、所属専攻分野における高度に専門的な講義科目、および学位論文研究に係る科目から編成されます。学際的知識を得るための研究科共通科目、合同セミナーの履修を義務づけています。さらに、学内外での幅広い社会的経験を得るための各種インターンシップ、コースワークを提供するとともに、大学院修了後のキャリア形成のための科目を開設し、国際社会、産業界等の社会への接続に配慮しています。</p>	<p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p> <p>大学院海洋科学技術研究科博士後期課程では、時代や社会に機動的に対応でき、地球規模での海洋に係わる諸課題の解決に創造的に立ち向かい、かつ、海洋とその関連産業分野における先端領域を切り拓く、意欲と能力を持つ学生を求めます。</p>	
<p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p>	<p>2. 教育課程実施の方針</p>	<p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p>	
<p>研究の企画立案・遂行、論文作成能力</p> <p>各研究分野における学術的意義、新規性、独創性、応用的価値を有した研究を企画立案・遂行し、その成果を学術論文として主体的に作成できる能力</p>	<p>大学院における学修課程・学修方法については、その専門性に依りて、各専攻で詳細に定められています。討論型授業、ケースメソッドなど多様な手法で実施される授業により、専攻分野だけではなく、学際的知識を幅広く学ぶ学修課程を提供しています〔2〕。さらに、博士後期課程においては、自身の研究成果の取りまとめを行うと同時に、他の学生の評価を行う中間発表会を実施しています。</p> <p>履修にあたっては、多様な学生に配慮した長期履修制度や、授業科目の成績・評価についての申立制度を導入しています。さらに、カリキュラムの国際通用性を担保するために、講義の英語化を推進し、単位の実質化を図るとともに、それらを基盤として海外の協定締結大学との共同学位プログラムも実施しています。また、特に優れた研究業績を上げた者については在学期間を短縮する制度も導入しています。</p>	<p>(1) 専門的学識</p> <p>自立した研究者として海洋・水産・海事における諸課題の解決に独創的に取り組むための高度に専門的な知識と研究手法の修得</p>	
<p>学際的・先端的で高度な専門知識</p> <p>各研究分野における基礎科学と応用科学に関連する学際的・先端的で高度な専門知識</p>	<p>(後期課程各専攻)</p> <p>(1) 特別演習・実験研究・博士論文作成および学術雑誌への論文投稿を通じた教育や実践的教育を介して、ピアレビューできる能力、研究の自律的推進能力、研究成果の論理的・効果的説明能力、学術研究における倫理性、自ら課題を発見し解決する能力を修得させます。</p> <p>(2) セミナー参加を通して、自己の研究成果とその意義を国際的な水準で議論し、必要に応じて協力体制を構築できる能力を育てます。</p>	<p>(2) 豊かな国際性と幅広い教養</p> <p>異分野との協働や英語による情報発信などグローバルに活躍する人材に求められる幅広い教養と国際的・文化的素養</p>	
<p>研究評価能力、自律的推進能力、論理的説明能力、倫理性</p> <p>各研究分野における他者の研究を適切に評価できる能力、研究の自律的推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における倫理性</p>	<p>【学修成果の評価の方針】〔3〕</p> <p>学修成果の評価基準を明示するとともに、研究成果の審査および試験を適切に行います。（東京海洋大学カリキュラム・ポリシー）</p>	<p>(3) 自ら考え判断する能力</p> <p>自身が行う研究について学術研究における倫理性と学術的意義を理解し、適切な研究計画を立案し遂行できる能力</p>	
<p>3. 修了認定(学位授与)の要件</p> <p>所定の単位を修得し、各専攻で定める学位授与の要件を満たし、各研究分野における学術的意義、新規性、独創性および応用的価値の観点から評価される学位論文、ならびに専門知識、論理的説明能力のほか、学術論文・研究発表に必要な英語力を最終試験において評価し、学位の授与に相当する能力を有していることが認められた者〔1〕に対して修了を認定し、博士（海洋科学または工学）の学位を授与します。さらに、海外の大学との協定にもとづき、所用の基準を満たした共同学位プログラム修了者については、協定締結大学からも学位が授与されます。</p>		<p>(4) 現場で通用する実践力</p> <p>得られた研究成果を論理的に説明できる能力、並びに自身の行う研究と社会との関わりについて自覚し、異分野の研究者や国際的な交流を通して多様なアプローチを考案しながら問題解決に結びつける積極性</p>	
		<p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>入学者選抜に際しては、「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、一般選抜、進学者選考、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜および外国人留学生特別推薦選抜を実施し、学生を選考します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜 学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。 ・進学者選考 学力検査の結果をもとに総合的に評価を行う。 ・社会人特別選抜 学力検査、業績の評価、成績証明書等により総合的に評価を行う。 ・外国人留学生特別選抜 学力検査、成績証明書等により総合的に評価を行う。 ・外国人留学生特別推薦選抜 書類審査または口述試験により総合的に評価を行う。 	

〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。
 〔2〕 各専攻の開設科目に加えて、専攻共通科目として、キャリア関連科目等を開講します。
 〔3〕 各科目の目標及び評価方法等をシラバスで明示するとともに学位論文の審査基準（審査方法・手順を含む）を公表しています。履修した授業科目の単位修得の認定（成績評価）は、学期末若しくは学年末に行う試験又は研究報告によるものとし、科目ごとに定める到達目標の達成度に応じて優・良・可・不可の成績を付与します。